

<設計コンセプト>

『伊佐市の未来を紡ぐみんなの庁舎』

新しい庁舎に求められるのは、まちとまちをつなぎ、人と人をつなぎ開かれた庁舎だと考えます。既存の施設を活かしながら誰もが立ち寄りやすい新しい庁舎を目指します。

1. 『つながる』庁舎

町と町をつなぎ地域の活性化につながる庁舎とします。人と人がつながり世代を超えたコミュニティが生まれる庁舎を目指します。



2. 『あつまる』庁舎

ひらかれた庁舎とすることで誰もが気軽に立ち寄ることが出来、様々な情報を得ることができる庁舎とします。ひとが自然を集まり交流が生れる庁舎をめざします。



3. 『つむぐ』庁舎

計画地周辺の既存の施設を積極的に活かすことでまちづくりの拠点としての役割を担います。市民が積極的に発信できる様々な場をつくることで未来につながる庁舎とします。



<各課題に対する基本的な考え方>

- ①誰もが立ち寄りやすい市民に開かれた庁舎
気軽に立ち寄ることができる市民に開かれた安心安全な庁舎
- ②利用者へのサービス向上と効率的な行政経営を実現する庁舎
利用しやすく働きやすい情報発信の拠点となる庁舎
- ③防災・災害対策拠点としての機能を維持できる安全性の高い庁舎
災害時に迅速かつ長期にわたって対応できる庁舎
- ④環境負荷の少ない経済性の高い庁舎
既存施設を有効活用しイニシャルコスト、ランニングコストともに配慮した庁舎
- ⑤まちづくりとして有機的な働きをもたらす庁舎
周辺の既存施設と効果的につなぎ人と人がつながる市民参加型庁舎

<設計プロセスについて>

検討プロセスを明確にした上で、話し合いのポイントが解りやすい資料づくりや、活発な会議が行われるような場づくりに努めます。また、市民の皆様がまちづくりや公立保育所建設に対して理解を深めるために、「市民の気づき」を募り、具体的な「かたち」にするための町民参画活動を行います。

- ・市民意見交換会
- ・ワークショップ等の開催
- ・3次元CAD、CG、模型、ドローン等を活用したイメージの提供と共有化

<業務の取り組み体制・チームの特徴>

・豊富な経験と知識を合わせ持つ協働体制
様々な規模の仕事経験のある意匠設計事務所を中心に全体の計画を行い、鹿児島県の地に根ざし丁寧な仕事を行う意匠設計事務所と共同をとります。経験豊富な構造、設備事務所をパートナーとし、密に連携をとり設計を進めていきます。

・徹底したプロジェクト管理
設計過程において、設計共同企業体のもと、対等な立場でのピアチェックを有効に活用することで品質の確保と向上を目指し、昨今の建設コストの高騰や職人不足などの懸念を考慮し、コストマネジメント及びスケジュール管理を行います。

<プロジェクトロードマップ>

・検討すべき時期、内容、決定すべきときが「見える工程表」により情報共有、且つ、手戻りの無いスケジュール管理を図ります。

・条件確定、平面計画、詳細検討等、テーマを明確化し、成果を積み上げる工程運営を図ります。

設計の進め方	令和2年～令和3年												令和3年～令和4年					令和4年～令和5年	
	2020年～2021年												2021年～2022年					2022年～2023年	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
マスター工程	基本設計(9ヶ月)												実施設計(9ヶ月)					建設工事(21ヶ月)	
基本設計(9ヶ月) 実施設計(9ヶ月)	基本設計1 配置/規模/比較検討と確認												基本設計2 基本プランの作成 内外装の検討 構造/設備の計画					まとめ 基本設計図書作成 方針説明書	
コスト	目標設定 類似物件を基に規模/仕様検証												高コスト反映 高コスト反映					概算 概算工事費確認 概算結果を基にVE検討を行う	
許可/条例関係 各種法令手続き	事前相談 手戻りがないよう早期に事前相談を行う												事前相談 必要に応じて相談を行う					各所相談 具体的計画を基に相談	
市民・職員参加 意見聴取 市民意見交換会	フェーズ1 テーマ1「伊佐市の未来を考える」 (配置検討)・市民意見交換会のメンバー募集												フェーズ2 テーマ2「施設像を考える」 (プラン検討)・複数のプランで検討 ・課題の具現化					フェーズ3 テーマ3「理想施設の実現へ」 (とりまとめ)・市民意見交換会、議論の結果をとりまとめ基本設計へ反映していく	

・ 構造・設備・コストの面で綿密な調整と精査を行い、町民の方々との町民意見交換会により基本設計の密度を高め、スムーズに実施設計へ移行します。
 ・ 基本設計を二段階で推進することで、意見のスムーズな反映や検討/判断事項の時期も明確となり、手戻りのない徹底した工程管理が可能となります。
 ・ 根拠に基づく設計、空間レイアウト、各種仕様の採否については、定量的データに基づいて行い、実効性の高い計画を行います。
 ・ ワークショップを通してきた施設のイメージを模型やCG・ドローンを用いた体感型の情報共有を行い理解を深めて頂き、意見や要望を確実に拾い上げて、設計の次段階へフィードバックしていきます。